



地ワイン「是里ワイン」のワイナリー



クラフト体験教室

「街」にはワイナリーの他にドイツ料理を味わえるレストランや売店があり、園内で最も賑わう場所となっている。そして、ドイツの森を満喫するために欠かせない体験教室があるのもココ。

クラフトの体験教室では、オカリナに色を塗ったり、押し花のしおりを作ったり、ドライフラワーでのリース作りが体験できる。また、ソーセージ作り、パン&バター作り、アイスクリーム作りという、農業公園ならではの手作り体験もある(要予約)。今回はドイツを意識してソーセージ作り体験に潜入。

手でハンドルを回しながら腸にひき肉を詰めていく作業は、慎重になりすぎてハンドルをゆっくり回すと細いソーセージになり、かといって早く回してしまふと太いソーセージができてしまふ。普段見慣れている形の揃ったソーセージのようにはなかなかいかず、同じ太さを維持して詰めていく作業にみんな悪戦苦闘。こうしてできあがったソーセージは真空パックしてもらっ

大きく6つのエリアに分かれていて、それぞれに違ったドイツを感じさせてくれる。

岡山県になぜドイツ?と思われるかもしれない。それは、岡山県の赤磐市とドイツのヴァルハウゼン村とのワインを通じての友好関係が縁となっていて、平成7年に生まれたのが、この「ドイツの森クローネンベルク」である。

きっかけともなった「ワイン」を楽しめるというのが、ドイツの森のこだわりであり、魅力の一つにもなっている。

園内に、地ワイン「是里ワイン」のワイナリーがあるのだ。ワイナリーは「街」中にあり、2階からはワイン醸造所の見学ができる。そして「是里ワイン」を試飲できるコーナーも設けられていて嬉しい。百円で試飲用のコップを買うシステムで、そこに置いてある七種類のワインを試すことが出来た。あまり飲めない私のお気に入りには甘口の「ピオーネ」(375mlで900円)。華奢なビンにほんのり赤いロゼワインが入っているのは見た目にもか

東備エリアの観光スポット

赤磐市・備前市

奥井 亜希子

岡山市の東側に、備前市・赤磐市・瀬戸内市の3市と和気町・瀬戸町の2つの町を指して「東備エリア」と呼ばれている場所がある。

備前と聞いて思い出すのはやはり「備前焼」だろう。ただ、焼き物の種類は何となく知っていても、備前他の魅力を余り知らない……という人がいるかもしれない。そこで、今回は「晴れの国おかやま」を満喫するのにピッタリの自然いっぱいスポットを2つご紹介したい。

この「晴れの国おかやま」というキャッチフレーズからも分かるように、岡山県は晴れの日が多く雨が少ないそう。それなら、外に出掛けるしかない!という訳で、まず初めに訪れたのは晴れた日に愛犬を連れて、ピクニック気分が気軽にに行ける身近なドイツ。

そしてもう一つは、懐かしい日本の姿を思い出させてくれる心のふるさと。どちらも「スケッチブックを片手にのんびりと訪れる」という感じの旅のスタイルが似合いそうな場所である。

岡山農業公園 「ドイツの森 クローネンベルク」

岡山市内から車で1時間ほど走ったところにある小ドイツ。「ドイツ」関連のテーマパークはいくつかあるけれど、ここは周りが山に囲まれているせいか「日本の中のドイツ」をあまり感じさせない。ドイツのある農村がポツと現れたような、そんな素朴さを感じられる公園が「ドイツの森クローネンベルク」。

とんがり帽子が印象的な入場ゲ



「ドイツの森 クローネンベルク」
とんがり帽子の入場ゲート

ートがあるのが「門」のエリア。ゲートを抜けると正面に噴水があり、右手にはブドウ畑が広がっている。レンガを敷き詰めたような中世ヨーロッパっぽい石畳の道を進んでいくと、レストランなどの店が並ぶ「街」が現れる。「街」は他のエリアへの分岐点となっている。ココから、季節の花が楽しめる「花」、ボートやパターゴルフが楽しめる「遊」、羊の追い込みショーを見ることが出来る「牧」、地ビール醸造所やドイツパンの石窯がある「村」へ行くことができる。このようにドイツの森内は



八塔寺の姿

八塔寺ふるさと村

日本人が、なぜか懐かしさを感じる風景。のんびりとした時間の流れに憧れを抱き、美しい自然に心癒される。

そんな心のふるさとが岡山県の東備前地方にある。

そこは「八塔寺ふるさと村」。優れた農村景観を保存復元し、次代に継承することを目的として県が指定したふるさと村整備事業。その結果、岡山県内にはふるさと村が七つある。

八塔寺ふるさと村は、その第一号として、昭和49年に指定された。とは言っても八塔寺の歴史は長い。奈良時代(七二八年)に聖武天皇の命により、僧 弓削(ゆげ)道鏡が建立したと伝えられているのが、照鏡(境山)八塔寺。もともとは真言宗の寺で、十三重の塔を中心に、七十二の寺と八つの院と六十四僧坊があつて繁栄していたという。しかし、播州と備前にまたがる山の上にあることから「八塔寺に登れば東西南北が見渡せる」と言われ、二百年の間宗派(しゅう)は・縄張り争いが絶えなかつた。何度か寺を燃やされては再建を繰り返した檀家を無視して急に宗派が天台宗に改宗させられるなど、その時々々の権力に翻弄されてきた。そんな争いも、寺社奉行石黒後藤兵衛(ひょうご)による調停のもと、八塔寺のすぐ下に真言宗の恵日山高頭寺が建てられ和解の道を通つた。この高頭寺は八塔寺と共に争いに巻き込まれてきたため、今でも残る門の一部が焼け焦げている。それを目の当たりにした時、本当にあつた話なのだと思ひ知らされると同時に、学校で習わない歴史を知



茅葺きの古民家が点在する懐かしい風景

ることができた。

この八塔寺を中心に、田んぼの中に茅葺き屋根の民家の点在する風景が広がっている。訪れた人は誰でも(田舎暮らしの有無に関わらず)、その景色に不思議と懐かしさを感じてしまうのではないだろうか。

その景色は度々映画の撮影場所となり、今村昌平監督の「黒い雨」のロケ地としても有名になった。生活感のある茅葺き屋根の民家があるということとロケ地として選ばれたものの数が



ソーセージの手作り体験もできます

「遊」エリアでは、ゴーカートやおもしろ自転車、足こぎボートに乗ったり、アーチェリーやバズーカ砲を撃つてみたりと身体を使って遊ぶことができる。

そして、ヨーロッパ風のバラ園があるのは「花」のエリア。バラ以外にも園内にはたくさんのお花が植えられていて、散歩をしているだけでもウキウキした気分をさせてくれるから、四季折々の花の開花情報はチェックしておきたい。

次に、本場ドイツの製法のビール工房や石釜パン工房がある「村」エリア。「村」は高台にあり、ここにある地ビール工房で作られているのが「吉井高原ビール」で、吉井川の水とドイツの麦・ホップを用いてドイツの醸造技術で作られている。また、年季が入っていて重厚感のある石釜で焼き上げられるパンは、売切れてしまうほど人気の商品の一つなのだそう。ここでもたお土産が増えてしまう。

このようにいろんな楽しみ方ができるのが魅力のドイツの森の総面積は約50万㎡と、とても広い。敷地面積6つのエリアをぐるっと回るだけで

DATA

岡山農業公園

ドイツの森クローネンベルク

赤磐市仁堀中 2006

TEL 0869-58-2111

アクセス: 岡山市内から車で約40km

営業時間: 9:00~17:00 (3-11月)

10:00~17:00 (12-2月)

入園料: 大人: 800円、

小人: 400円、犬: 300円

URL <http://www.fampark.co.jp/doitsunomori/>

結構なエネルギーが要る。もし楽に巡りたい時には、赤と緑がレトロな雰囲気を引き立てている汽車型のチューンアップされた「クロネ号」(300円)が便利なので乗り場待とう。個人的には、グループでわいわいと訪れた「ドイツの森クローネンベルク」。親子で、グループで楽しめる様々な手作り体験に加えて、ドイツ料理地ワイン・地ビールといったドイツ製法の味を堪能することができれば、ドイツの森休日マスター。来春には、もっとお花畑が増える予定なので、楽しみはまだ続く。



皇屋敷

足りない」と一軒丸々移築してきたり、水道の蛇口や電気メーターなどを時代に合わせて付け替えたりと、画面上に映し出されるのかどうか分からない細部に至るまで監督は「たわつていた」という。

そんな景色が今、危機に晒されている。ふるさと村認定時に二十棟あった茅葺き屋根の建物のうち、現在も残っているのは十二〜三棟だという。民家は、そのうちの三軒くらいになっ

てしまい人の住む生活感も失われつつある。その原因の一つが、茅葺き屋根の維持の難しさ。県や市が管理している建物は定期的にメンテナンスされるが、個人のもは個人任せになってしまっているという。昔は、一度葺いたら40年くらいもつていたそうだが、今は15年〜20年で交換しなければならず、その度に200万から300万円という高額な費用がかかるというから個人任せといわれても辛い。そのため、個人任せ分が荒れ放題となり、基盤の木材まで腐ってしまうのだと案内をしてくださったふるさと村村長の釜本さんが寂しそうに話してくれた。木材まで腐ってしまうと一から立て直さなければならぬという繊細な建物だけに、今あるものを守れば良いなと思う。何ができるかはわからないけど……。

八塔寺ふるさと村の魅力は、歴史と建物だけではない。鳥のさえずりに緑の香り、目をつむっても感じられる自然があることが大きな魅力。八塔寺を中心に、約6kmの長さの遊歩道がある。八塔寺の東にある日吉神社の階段を登りきり右に折れて歩道

DATA

八塔寺ふるさと村

備前市吉永町加賀美 1221

TEL 0869-85-0112

(民宿こうけんじ)

交通: 岡山市内から車で約60km

入園料: 無料

URL <http://home.kobe-u.com/pastoral/hattoji/>

を進んでいくと、石を借りて願いを叶える話が残る五輪の塔(石子詰の塚)がある。(願いが叶ったら、倍にして返すのだそう)そのまま進んでいくとふるさと村の水田の水源となる池に出る。そしてもう少し進むと、後鳥羽上皇が隠岐に流される時、夜露をしのぐ為に立ち寄ったという皇(すべらぎ)屋敷があり、さらに先は八塔寺山へと続く。

時間を忘れて歩き回って、自然の中で、のんびり過ごす幸せを体感し、欲しい。

急ぎ足の毎日から逃げたくなったから、岡山県でちよつと心の一休みしてみるのは如何でしょう？